



平成 19 年 10 月 4 日

各 位

会社名 株式会社ビックカメラ
代表者名 代表取締役社長 宮嶋 宏幸
(コード番号: 3048 JASDAQ)
問合せ先 常務取締役経理本部長 金澤 正晃
TEL 03-3987-8785

特別利益および特別損失の計上ならびに平成 19 年 8 月期通期（個別）業績予想との差異に関するお知らせ

平成 19 年 8 月期において下記のとおり、特別利益および特別損失の計上についてお知らせするとともに、平成 19 年 4 月 12 日に公表いたしました平成 19 年 8 月期通期（個別）の業績予想を修正いたします。

記

1. 特別利益について

平成 19 年 8 月期末において、有限会社三山マネジメントの資産売却（平成 19 年 9 月 20 日公表「固定資産の取得に関するお知らせ」参照）に伴い同社宛債権を再評価した結果、平成 17 年 8 月期に計上しております同社に対する貸倒引当金が不要となりましたので、特別利益として貸倒引当金取崩益 1,700 百万円を計上いたします。

2. 特別損失について

「その他の有価証券」に区分される保有投資有価証券のうち、実質価額が著しく下落し、その回復があると認められないものについて、平成 19 年 8 月期末において減損処理による投資有価証券評価損 700 百万円を特別損失として計上いたします。

(1) 平成 19 年 8 月期末の投資有価証券評価損の総額

(A) 平成 19 年 8 月期末の投資有価証券評価損の総額	2,653 百万円
(B) 平成 18 年 8 月期（個別）純資産額 (A/B×100)	42,557 百万円 (6.2%)
(C) 平成 18 年 8 月期（個別）経常利益額 (A/C×100)	12,574 百万円 (21.1%)
(D) 平成 18 年 8 月期（個別）当期純利益額 (A/D×100)	6,587 百万円 (40.3%)

(ご参考) 当社の決算期（事業年度の末日）は、8 月 31 日です。

(2) 投資有価証券評価損計上の理由

投資有価証券評価損 2,653 百万円のうち 700 百万円は、当社が出資しております株式会社学研クレジット株式の評価損であります。同社の事業環境の変化により、投資資金の回収が困難になったことから減損処理を行ったものであります。また、投資有価証券評価損 2,653 百万円のうち 1,953 百万円は、平成 19 年 8 月期中間期に計上したものであります。

3. 平成 19 年 8 月期通期（個別）業績予想の修正について（平成 18 年 9 月 1 日～平成 19 年 8 月 31 日）

(1) 個別業績予想数値の修正

（単位：百万円）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想（A） （平成 19 年 4 月 12 日発表）	445,000	14,000	6,400
今回修正予想（B）	446,000	15,200	7,400
増減額（B－A）	1,000	1,200	1,000
増減率	0.2%	8.6%	15.6%
（ご参考） 前期実績（平成 18 年 8 月期）	428,135	12,574	6,587

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。

(2) 業績修正の理由

個別業績につきましては、売上高は、大画面薄型テレビ、エアコン・洗濯機・調理家電・理美容家電等の高機能・高付加価値商品、デジタルカメラ、テレビゲーム機本体や関連するゲームソフト等の販売が好調に推移したことから、予想を上回る見込みであります。

経常利益は、積極的かつ効率的な販促策の実践による広告宣伝費・ポイント販促費の計画的運用、その他の販売費及び一般管理費についても効率的運用に努めたこと、および、第 4 四半期に当初見込んでおりました経費の増加が計画を下回ったことから、予想を上回る見込みであります。

当期純利益は、上記のとおり投資有価証券評価損を計上する一方、貸倒引当金取崩益を計上することから、予想を上回る見込みであります。

4. 今後の見通しについて

平成 19 年 8 月期通期の連結業績につきましては現在集計中であり、数値が確定次第、改めてお知らせいたします。

以 上